

■ 2014 年度教育システム研究開発センターの事業報告

1. 幼小一貫教育の研究開発への協力

附属幼稚園と附属小学校では、これまで二次にわたる幼小一貫教育（初等教育学校構想）の研究開発学校の成果を踏まえ、平成 27 年度から再度、文部科学省の指定を受けて研究を進めるべく、今年度、準備委員会を立ち上げ、研究開発実施計画を策定しました。この準備委員会には、西村センター長、梶田特任教授、天ヶ瀬センター員、吉田信也センター員が参加して計画策定をサポートしました。新たに立てられた研究課題は「幼小一貫教育において生活と学習をつなぎ、同年齢や異年齢で協働的に探求を深め、多様な能力や個性的な才能を引き出す「生活学習力」を育成する教育課程の研究開発」というものです。このテーマで申請した結果、研究開発学校の指定が内定し、新年度からは新たなプロジェクトが始まります。センターでは引き続き、このプロジェクトをサポートして行きます。



2. 中等教育学校のスーパー・サイエンス・ハイスクールへの協力

附属中等教育学校では、「21 世紀のリベラルアーツ」をテーマにした 2 期目の SSH である、自然科学リテラシーを基盤とするリベラルアーツの育成のためのカリキュラム開発および高大接続のあり方についての研究開発が最終年度となりました。本プロジェクトの中核として設置されて 3 年目となった独自科目「コロキウム」では、辻センター員が企画・実施・評価に参加するとともに、若手教師のキャリア形成という観点から研究を実施しました。本科目には、教職を希望する本学の学生も参加し、新たな教員養成の場としての機能も果たしました。3

期目の SSH には、『共創力』を備えた科学技術イノベーターを育成するためのカリキュラム開発」をテーマに申請しています。今後、2 期までの実践研究の評価を行いつつ、サイエンス研究会のより質の高い指導、課題研究のカリキュラム開発、高大接続教育の研究をさらに進めます。教育システム研究開発センターとしても、西村センター長が運営指導委員を継続して担当する予定です。

3. 高等教育研究プロジェクト

平成 23 年度から実施している高等教育研究プロジェクトは、24 年度末に野口前学長に提出したセンターの教養教育改革試案を受けた「教養教育改革検討会議」が昨年度末に立ち上げられ、そこに西村センター長、鈴木センター員、北尾センター員がメンバーとして参加して、具体案の検討が行なわれました。その結果、9 月 2 日に教養教育改革案を今岡学長に提出しました。改革案の骨子は、①現行の教養科目の大幅見直しと再編成の必要性、②本学の教養教育の理念：「奈良女子大学的教養——5 つの問いと 7 つのアプローチ」、③新入生全員が履修する「パサージュ」（ミニゼミ）、④「教養コア科目」＋「サテライト科目」群、⑤教養教育の企画、運営、評価に責任をもつ新組織の創設、というものです（詳しくはニューズレター第 36 号をご参照ください）。学長から直ちに改革案を実施するよう指示があり、現在、教育計画室の教養教育部門と教養教育改革検討会議WGが合同で、平成 27 年度からの実施（試行）に向けた準備を進めています。この過程で、センターでは NL 等を活用して全学的な議論の媒介・促進をしてきましたが、新年度からはさらに、この新しい教養教育の成果を検証、学内で共有し、全面実施に向けた議論を促進する FD 活動をセンターの高等教育研究プロジェクトが担当して行きます。

4. 高大連携特別教育プログラムのフォローアップ

センターでは、附属中等教育学校との高大連携特別教育プログラムのフォローアップを担当しています。今年度も従来と同じく、前期開始時のガイダンス、後期開始時の面談とアンケート、12 月の入学予定者へのガイダンスを実施しました。また、昨年度末、このプログラム

の最初の卒業生が出たのを受けて、センターでは保田センター員を中心に、卒業生の成績および蓄積されたアンケートの分析、専門課程での指導教員へのインタビューなどを行ない、プログラムの成果検証に取り組みました。その結果は3月に附属学校運営会議に報告されました。

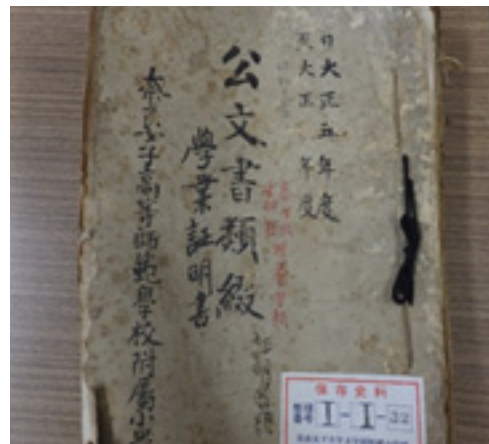


5. 教員養成・教職リカレント研究

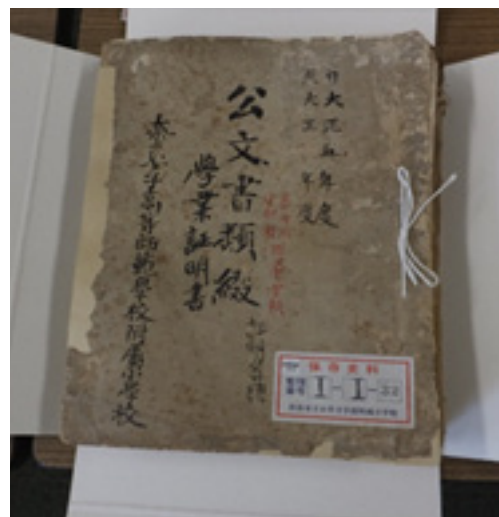
近年、附属校園では世代交代の時期に直面して、新しく着任した教員の研修が課題となっています。平成26年度、附属小学校には新たに2名の教員が着任し、「奈良の学習法」を実践する学校の一員として、管理職をはじめ同僚の教員たちのアドバイスや見守りの中で、指導力を高めてきました。本センターでは梶田特任教授を中心に、教員養成・教職リカレント研究の一環として、下記のように新任教員の研修に関わってきました。①週1回程度、授業を参観し、その後、必要に応じて対話する時間を設けました。②「奈良の学習法」の立場から、子ども観や授業観、指導観、自らの実践の省察などの視点を伝え、交流しました。中でも、子どもたちが自律的に学習を進められるように、学級や個々の現状から、何をどう考えていけばよいのか、知恵を出し合いました。③その他、教育全般に関わっての相談に応じました。この一年、若手教員が「奈良の学習法」に向き合いながら自らの教育方法や教育観を練り上げていく実践からは、センターとしても学ぶことが多くありました。その成果を今後の教員養成・リカレント研究に生かせるよう努めたいと思います。

6. 附属校園史料保存・公開

附属校園の中でも、特に附属小学校に保存されている明治末期以来の学校文書史料は全国の学校文書史料と比しても、質量ともに突出した貴重な史料であるため、長年にわたり研究者によって活用されてきました。しかし近年、史料の劣化・損傷が著しく、酸性紙の脱酸処理の補修作業が緊要となっています。全ての史料補修には多額の費用がかかるため、本年度は大学の援助を受け、まずは劣化・損傷の著しい史料を最優先し補修しました(写真は補修前と補修後の状態)。



作業は、附属小の史料を使って学位論文を執筆した本学博士後期課程修了者の阪本美江さんに研究員として協力を得つつ、藤井センター員が担当しました。また、今回の補修は全史料のほんの一部に過ぎず、附属小学校史料を後世に残していくためには、外部資金の獲得が必要であることから、西村センター長の統括の下、藤井センター員と阪本研究員が中心となって科研費基盤研究(B)に申請しました。科研費の採択によって、残りの史料補修に加え、史料保管の環境整備、高い学術的価値を有する史料をこれまで以上に広く共有し活用するためのデータ化等が期待されます。



■ 奈良女子大学教育システム研究開発センターニューズレター 37 ■

2015年3月31日発行

奈良女子大学教育システム研究開発センター

住所：〒630-8506 奈良市北魚屋東町

奈良女子大学コラボレーションセンター 204

TEL：0742-20-3352

Website：http://www.nara-wu.ac.jp/crades/

E-mail：crades@cc.nara-wu.ac.jp